

わたぼうし家族会だより

2016年 第1号

3月に入り、ようやく春らしい暖かさが出てきたように思います。わたぼうしのそばにある早咲きの桜の木はすでに3分咲きほどになっていますが、みなさんの近くに“春”はやってきていますでしょうか？それでは、1月に行われた「家族会 * 新年会」のご報告させていただきたいと思います。

美味しい新年会でした！



年明け1月19日(土)の12:30より、毎年恒例の新年会が行われました。新年にふさわしい華やかな仕出し弁当(「百々花」というお店です)をいただきながら、参加者同士、話に花が咲きました。今回も新規参加の方を向かえ、参加者11名、職員4名の合計15名！いつもなら職員が満遍なく皆さんの間に入って相談に乗らせていただいたり、職員を交えて話したりすることが多いのですが、この度は参加者同士で親しげに語り合う皆さんの様子が印象的でした。食事も終え、意見交換もひと段落したところで、わたぼうしでの1年間の活動写真をスクリーンに映して観ていただきました。利用者さんが熱心に作業する姿や楽しそうにゲームをしている姿、満面の笑みでおやつをほおぼる姿などなど…参加者の皆さんは、自分たちの家族が有意義な時間を過ごせていることに安心されているように見えました。今年もわたぼうしでは、利用者さんとその御家族とコミュニケーションを取り、より良い在宅生活を送れるよう、サポートさせていただきます！よろしくお願い致します。





認知症介護の豆知識



～宙にひとり浮ぶような体験をしています～

認知症が進行してくると、離れて住んでいる人とのつながりが分からなくなります。さらに進行すると、家族が同じ家の中にも、姿が見えないと1人ぼっちになったような不安に襲われます。さらに、最近の記憶だけでなく、遠く離れた記憶までぼやけてくると、目の前で世話をしてくれている家族との関係がわからなくなる人もいます。自分がどうしてここに住んでいるのかも、はっきりと分からなくなります。50年以上住んでいる自分の家がそれと認識できず、80年前に生まれた遠い故郷の家に帰るということがあったりします。

認知症の方の障害された認知機能で外界を見てみると、古い記憶も失われ、姿が見えない人の存在が感じられなくなり、過去と現在未来の時間の縦糸、周囲の人とのつながりの横糸を失って、虚無の宇宙に浮ぶ原子のような寄る辺のなさの中を漂っているような感覚の中にあります。

「もしも自分がそのような世界に生きていたら…」
と時々、想像してみてください。

<参考文献：「兆候と対応がイラストでよくわかる 家族の認知症に気づいて支える本」監修 斎藤正彦>



次回のご案内

次回の家族会は下記の予定で開催します。
詳細については後日お知らせいたします。

日時： 2016年 4月 16日 (土)
12:30 ~ 14:30

